

平成 30 年度 第 1 回インクルーシブ教育(支援児包容教育)推進委員会 議事録

□開催日時：平成 30 年 7 月 19 日（木）14：30～16：40

□開催場所：駅北庁舎 4 階 大会議室

□出席者（敬称略）

- ・委員：宇野宏幸 中野正大 柴田勇夫 廣瀬和信 渡辺裕之 奥田紳二
保母朋子 西村育子 則武里香 可知徳仁 水野恵美子
高木貴代子 瀨瀬育恵 天野智恵子
- ・事務局：渡邊教育長 鈴木副教育長 木股次長 安田孔美 井口裕子 井口妙子
吉田ゆうな

1 あいさつ

教育長あいさつ

2 自己紹介

3 委員長、副委員長選出

4 検討内容

(1) 主張大会作文の紹介

(事務局作文紹介)

委員感想

- ・子ども自身、困ったことを発信することは勇気がいる。信頼が必要。子ども自身何が困っているのかを、理解できるようになる必要がある。
- ・年齢相応のことができて当たり前という周りの目があるとつらいと思う。分からないことが言えなくても、周りの人が気付いてどうしたらいいか伝えられると良い。
- ・小学生には、自分が何に困っているか分からない子も多くいる。困った時に言えるようになるための準備をしている。
- ・どのように自分の気持ちを表すか、表情、身ぶり、手ぶりでどのように相手につたえていくかが大切。大人がどのように受け止めていくか、そこからどのように子どもの気持ちを探っていくかが大切。
- ・周りの影響で感謝ができるように育つことが良い。
- ・いろいろな特性、見方・考え方を持っている人がおり、一人一人の考え方感じ方を周りが理解する必要がある。発達に障害がある子どもは、体温調整を上手くできない子が多い。個人差が大きい。

- ・何に困っているかを感じてあげることが大切。健常者が思いやってあげることが大切。
- ・困っていて、助けてほしいと言える子は少ない。周りが察して子どもたちに発信する必要がある。

(2) 平成 30 年度の推進計画について

①新インクルーシブ教育推進プランについて

(事務局説明)

副委員長

「基本施策 1－③学び方の違いに応じた支援の工夫」についてはこれからのインクルーシブ教育を考えると、すべての子どもにおいて障害があるなしに関係なくそれぞれ違う学び方を持っているため、そこを尊重した教育を行ってほしい。

「基本施策 2－③特別支援学級、通級指導教室による指導の一層の充実」について、予定、予算、人的な工夫やプランがあれば教えてほしい。形にとらわれず、柔軟に学ぶ場がつくられるといいと思う。

事務局

まだ予算の具体的な案は立っていない。子どもたちの学びを保障するため通級教室のあり方を考えていく。通級指導教室と通常学級の先生同士の連携をどのようにしていくのか具体的に集めていきたい。

合理的な配慮というのはどのようにしていくことかご教授願いたい。

副委員長

体制、支援のシステムについて、文科省が特別支援教室構想をだしており、東京都などは支援学級を拡充し、より広く、子どものニーズを拾っている。柔軟に情緒・知的・通常などのクラスの中で効率的に行う構想などがあるので参考としていくと良い。合理的な配慮については個別のニーズを拾って、対応していくことになる。

委員長

学び方の違いが障害の有無ではなくすべてのことにつながっており、とらえ方をもっと多様に見ていく必要がある。通級については個人的な措置がなかなか厳しいことが現状であるが、多治見市では通級の巡回があり担任と話す機会がある。連れて行きたくても交通手段がない場合や、大きい学年になると周りが気になって行きづらくなる子がいる。

委員

「基本施策 1 1人1人の教育的ニーズの把握」についてひとりの子にとってのニーズでも変化していく。変化があることを理解しながら一番良いのが何かを一人一人の子どもに対して考えていく必要がある。個人差が大きい個人個

人の今のニーズを見極める。本当にこれでよいのかなど先生自身たちも悩んでいると思う。逆に教えてもらうこともあるので交流は大切。病院の中だけの情報では限界がある。今後も続けていきたい。

委員

日頃から幼稚園・保育園とは連携をとっている。2年前からの施策である訪問支援事業について取り組んでいる。今後の課題は私立園との連携、または国が学校と福祉部局との連携だと思う。発達相談について保健センターで受けられる期間が短い。親さんが来た時に受け入れられるようにしたい。

委員

スマイルブックについて存在を知らない人がいる。スマイルブックがあると新級・進学の際に引き継ぎしやすい。内容はもう少し、具体的に書ける部分があると良いと思う。

委員

スマイルブックの引き継ぎ会の時に話した内容が関係する先生全員にしっかりと伝わり、理解されると良い。

委員

スマイルブック自体には総合的なことしか記入がなく実際にその子どもが何で困っているのか、このようにしたらうまくいくなどの具体的なことが書いていない。具体的に書ける内容になると良い。

委員

「基本施策4 就学先決定の仕組みと教育支援の充実」について将来といった部分を強調するとよい。進路支援などといった文言にすると将来を見据えていることが明確になる。「基本施策4-③ 就労まで見据えた本人、保護者への情報提供」について、中学校から高校への進学や、大学への進学も直近の課題となるので、進学・就労といった表記にした方がよいのではないかと。

委員長

事務局側に検討いただくこととする。

- ②平成30年度発達障害に関する教職員などの理解啓発・専門性向上事業（特別支援育の視点を踏まえた学校経営構築研究開発事業）について
- ③平成30年度発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業運営協議会（事務局説明）

委員

先生方も先生の立場で頑張って考えていらっしゃるかと思う。また別の視点からお話しさせていただきたい。先生方が考えていることで不安に思っていることなどもあるかと思うが、講じてきた支援について、肯定的に捉えてもらえるとうよい。一人だと自分がしてきたことが本当に良かったのか自信がないことがあるかと思う。

委員

陶都中学校の体制は進んでいる。市内の他の学校へ波及していくと良い。個別的なニーズを取組み、担任が対応できるという点もよいが、学校教育全体を考えると、ユニバーサルデザインが陶都中学校をモデルに広がっていくと良い、協働学習についてアクティブラーニング（対話的・主体的・深い学びの学習）が学校で本格的に 2020 年度から開始されるが、そのような中で発達障害の子どもが学びやすくなっている。大きい教育の流れと合わせて、うまくサポートされていくと良い。学校としての取組みも広めてもらえるとうよい。

委員

i P a dなどで視覚的に支援をし、みんなに分かりやすいようにやってもらっている。最初の頃は不安だったが、実際に実物を子どもたちに見せ、触るなどして五感で感じ、グループの中で話し合い、工夫されつつある。昔から子どもたちの自主的な学びが原点であったと思う。先生がいろいろな道具を持っていき、分かりやすく説明はするが、子どもたち自身が見通しをもつことが抜けてしまい、子どもたちの思考の流れとずれないように、原点を忘れないようにしなければならない。

委員長

マニュアルを作り、これから上げていく途中段階ということではどうか。

事務局

良い。

委員

「書けない」のか「書かない」のか等、実態をとらえることが大切。実態把握をしてから支援ができると良い。

(3) プランの進捗状況について

①平成 30 年度中校連絡会議について

②就学先決定の仕組みと教育支援の充実について

- ・第 1 回集学区等支援委員会より
- ・就学にかかわる学習会及び学校見学会の実施について

(事務局説明)

委員

巡回相談にもかかわってもらっており、様々な視点から細やかにみてもらえている。その場で見た姿から意見が出ている。高校と中学校の連携について、顔を合わせて、今困っていることや、前見ていた子のその後の姿について情報婚関することができている。当たり前の作業のようではなかなか今までできていなかったことができるようになった。良い点も課題もあると思うが、せつかくの取り組みなので多治見市発信で県内に広がっていくとよい。取組内容について説明すると保護者にもご安心いただけている。これからも続けてほしい。

(4) 事務局からの話題提供「子どもが抱いた将来の夢に対して」 1 : 52 : 30

(事務局話題提供)

委員意見

- ・否定はしたくない。理由を聞き、そのために今できることを聞き、今できることをやることを促す。
- ・夢が見つかってなりたいと思うことがうれしい。夢に向かって頑張ってもらいたい。いっぱい聞いてあげたい。応援してあげたい。
- ・夢が持てることがよい。いい夢を持っている。夢を追い続けよう。どうしてそう思ったのか。その理由から派生して、他の仕事もあることをおしえ、夢が広がる支援をしたい。たとえ夢が途中で変わってもおかしいことを教えてほしい。自分の夢を言えた子は聞いてもらえる安心感があって言える。安心感があるから次の言葉になる。伝えてよかったと思える経験をさせてあげることが必要。
- ・夢があるからこそ勉強も頑張れる。夢に向かって頑張る中でいかに頑張るかが大切。多治見市の長期計画の中で「夢」という目標を作ってはどうか。ゴールのイメージを子どもがもち、周りが理解することが大切。
- ・厚労省が一番言っている重要課題はこれにつける。本人の意思を尊重し支援していく。意思を確認し、否定は絶対にしない。夢の具体的な内容を語った時、質問をしていく。夢をかなえるためにできることを一緒に考えていく。簡単なところから行って、やる気を引き出していく。親の意思によって左右されてしまうこともある。本人が本当にやりたいことを受けることが大切。

5 次回予定

12月を予定している。